

5月27日の礼拝メモ

『御霊に導かれて進もう』

ガラテヤ人への手紙 5:16～26

もし私たちが御霊によって生きるのなら、
御霊に導かれて、進もうではありませんか。

序]

ガラテヤ5章は、自由の宣言から始まる。パウロは、キリストの救いを「自由と解放」という言葉で表現した。その自由と解放を頂いたクリスチャンたちが、今後どのように歩めばよいか。

- ①救いの事実をしっかり立つこと。
- ②またと奴隷のくびきを負わせられないようにすること。
- ③御霊に導かれた生活を過ごすこと。

Driveというのは「導く」「ある方向に引っ張る」という意味がある。聖書は「御霊に導かれて進むように」と勧める。しかし、御霊にドライブされない状態がある。

本]

I 人間は何にドライブされてしまっているか

「肉の欲望」(16)である。肉の欲望にドライブされた結果は19～21節。そもそも「肉」とは何か？自我である。聖書は、この自己中心性を「罪」と呼んでいる。

II 肉の欲望から解放されるにはどうすればよいか

御霊にドライブされた人生を過ごすこと(25)。パウロは、5章1～12節で、肉の欲望から解放されるのに「律法」では間に合わないと述べている。割礼を受けたところで、一生、律法を守り続けたところで、肉の欲望から解放されることはない。

* どんなに修行し、苦行勤行しても、人は救われない。御霊に導かれることなしに、本当の自由も解放もない。

III 御霊に導かれる方法

十字架信仰である(24)。自分の肉を十字架につける。もし、肉の欲望にドライブされたまま生活していくと、「自分のしたいことが出来ない」(17)その果ては天国ではない。「神の国を相続することは出来ません」(18)

* しばしばクリスチャンの中にも、御霊と肉が同居している状態にある。だから、パウロはガラテヤの信徒たちに、救いの事実をしっかり立つこと。二度と奴隷のくびきを負わせられないようにすることを注意し、その上で「御霊によって歩みなさい」と訴えた。

結]

「歩みなさい」とは、日常生活を意味する。御霊にドライブされたらどうなるか？御霊の実を結ぶ(22,23)。神に対しては愛、人に対しては寛容、自分に対しては誠実。一つずつ、少しずつ、成長を目指して進もう。そのために、今日も十字架を仰ぎ、悔い改めて信仰を新たにし、御霊に導かれて進もう！